
あなたへの贈り物

ari sa

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

あなたへの贈り物

【Nコード】

N7072E

【作者名】

a r i s a

【あらすじ】

あたし、幸せでした。死間際の少女が恋人へ贈る言葉。

(前書き)

ガラにも無くラブっぽいの書いてみました。

舞は、柔らかい微笑みをたたえた顔で、パイプイスに座るタケルの方を見た。タケルの一番好きな顔。

舞の命の灯は消えかけている。

「タケル……。今までありがとう」

舞は、白い無機質なベッドに、上半身だけを起こし、タケルに微笑みかける。「あたしが死ぬ時は、側にいてね」

そう言った彼女は、すごく美しかった。

タケルは何も言わない。

「タケルと出会ったのって、三年前の今日だったよね。運命みたい……。」

彼女は、語り始めた。今思うと、それも彼女が病に打ち勝つ為に続けた抵抗だったのかも知れない。

「三年前、あたしカフェでバイトしてたんだよね。タケル、おっかしかったぁ！本ずーっと読んで、コーヒー六杯くらいおかわりしてたんだよね。そんなのが一週間くらい続いてから、タケル入院したんだよね。胃が荒れてたって聞いて、笑いそうだったよ！うふふ。」

でさあ、あたしに声かけてくれたんだよね。またお店来るようになってから。

『名前教えて』ってさあ。あたし、嬉しかったんだよ？佐原舞だっ
て言ったらキレイな名前だなんて言ってくれて。

ゴハン食べに行ったよね？それで、三回目くらいに告白してくれ

て……」

舞は、財布から遊園地のチケットを出した。

「これは、三回目のときの。思い出だよ。」

でも、そんなときだったよね。あたしのビョーキが発覚したのつて。」

白血病。

それが舞の病名だった。

「辛かったなあ……。幸せだったのに」
舞が、俯いた。

「点滴、痛いんだよ。ぶつとい針が刺さつてさ。ふふ。死ぬときは刺さないって約束してくれたから良かったけど。」

舞の腕に、点滴の針は刺さっていなかった。

「タケル、あたしがビョーキって分かってても嫌がらなかったよね。それどころか、一緒に頑張ろうって言ってくれた。ありがとう。」

すつごく、すつごく嬉しかったよ。」

舞が、タケルの手を取った。

「ばいばい、タケル。」

「……っ死ぬなよ……っ」 舞は、静かに目を閉じた。タケルが一番好きな顔で。

(後書き)

意味分からないかも……。コメントお願いします。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7072e/>

あなたへの贈り物

2010年11月16日03時46分発行